

第9回 ふわりんクルージョン2018 冬

ユニバーサル？ダイバーシティ？
多文化多様性と共生する僕たちになるには？
～違いを受け入れて、お互いが尊敬し合い、
良いところを活かしあって繋がり生きる社会～

2018年12月15日(土)16日(日)

15日(土)10:00～18:30 16日(日)9:30～17:30 (いずれも30分前より受付開始)

会場：秋葉原コンベンションホール

東京都千代田区外神田1-18-13 秋葉原ダイビル2F (JR秋葉原駅・電気街口徒歩1分)

今回注目の内容とは？！

★そもそも医療的ケア児の定義って何？
判定基準作れるの？

★医療的ケア児を含めた障がい児の未来

★生かされるだけでなく生きる・ともに生きるには？

★医療的ケア児でも、学校はどこに行きたいか
自分で選べるんやでえ！！

登壇者も続々と決定！

★我がごと・丸ごと・自分ごとの地域創ってます！住民参加でね！

★生活困窮者支援をしている僕らが発達障がいについて学んだら・・・

★分科会～じっくり語ろう！3時間半！～ ほか

定員：300名 (対象者：医療・福祉関係者・行政・保護者など)

参加費：両日参加：15,000円 1日のみ参加：8,000

(学割：1日のみ両日参加いずれも 5,000円)

お申し込みは
コチラから↓

【お問い合わせ】

社会福祉法人むそう NPO法人ふわり

T E L : 0562-85-3131 F A X : 0562-85-4073

Email : info@fuwari.tv

<https://form.os7.biz/f/7f3f4200/>



主催：社会福祉法人むそう 特定非営利活動法人ふわり
共催：全国医療的ケア児者支援協議会

12/15 (土) 1日目

セッション①

「そもそも医療的ケア児の定義って何？ 判定基準作れるの？」

医療・介護・障がいのトリプル改定がこの春あり、医療的ケア児者への様々な対策が打たれました。医療的ケア児等支援コーディネーター養成研修が全国で行われ、具体的な支援が展開されようとしています。

一方、医療的ケア児の中でも、とりわけ新しい課題と言われている「動く・知的レベルの高い医療的ケア児」の問題は、判定基準が未整備などの理由で、抜本的な対策が打たれることなく、問題解決が先送りされました。3年後の改定を見据えながら、この春の成果と今後の課題を整理します。

セッション②

「生かされるだけでなく生きる・ ともに生きるには？」

「違いを受け入れて、お互いが尊敬し合い、良いところを生かし合っ

て繋がり生きる社会」多様性と共生する「ダイバーシティとノーマライゼーションの社会」の実現をするにはどうしたらいいのか。

医療的ケア児も、外国人も、LGBTの人も、お年寄りも、生活困窮の人も、誰もがその可能性を最大限生かされる社会の実現。

オリンピックを迎え、多文化・多様性と共生する社会を目指すといけ

ないのに、なんだか逆に単一思想を強く主張する排他的な風潮になってきてませんか？

みんなでしっかり考えてみたいと思いませんか？

12/16 (日) 2日目

セッション③

「我がごと・丸ごと・自分ごとの 地域創ってます！住民参加でね！」

「我がごと・丸ごと地域づくり」の方向性は素晴らしいけれど、具

体的にどうしていいのかわからない。いろいろな所で聞く声です。ひな形なんてないんですよ。その地域毎なんですから、って言われちゃうと、さらにどうしていいかわからない。国のパワポ通りに、細則を読み込んで、運用管理だけしてきた行政マン達の悲鳴が日本中から聞こえる昨今。

国のパワポ見て似たようなシステムを審議会で作って作り込むんじゃダメ。ひとり困っている人を見つけて、寄ってたかって幸せにする。気がついたらシステムになっていた。そういう感じ。

そういう感じを。全国各地から報告して頂きます。「ニーズ至上主義者の集い」です！

行政説明

「医療的ケア児を含めた障がい児の未来」

障がい児の再定義を促すことになるほどに、「医療的ケア児の状態像は多様です。とりわけ立ち上がり、知的障がいもない「動く・知的レベルの高い医療的ケア児」の存在は、医療・福祉・教育・労働などの各分野に、横断的な新たな体制構築の必要性を迫っています。医療的ケア児を含めた障がい児の今と未来を室長がどのように考えているのか、お聞かせいただきたいと思います。

行政報告

「豊かな暮らしの場をすべての人に どのように実現していくのか」

家族が育てることが出来ない社会的養護が必要な医療的ケア児の退院後の受け入れ先をこの社会は考えていません。結果として、乳児院の子どもの3割が医療的ケア児という現実があります。障がい者のグループホームは0歳から15歳までの子どもの利用を認めていません。このままでもいいでしょうか？

団塊の世代の障がい者の親の介護が限界を迎えています。その人数は膨大、入所施設を小規模化して作りやすしたり、グループホームや地域生活のバックアップ機能を期待した地域生活支援拠点を制度化したりしていますが、焼け石に水の状態です。

地域生活の基本機能は、住まいの豊かさです。国における現在の政策内容をお話頂きます。

対談

「医療的ケア児でも、学校はどこに行きたいか 自分で選べるんやでえ！」

大阪府豊中市には、普通の学校に通う医療的ケア児がたくさんいます。その学校生活を支えている「学校への訪問看護」とでもいうような豊中式の看護師派遣体制は、とにかく子どもの想いに応えたいという関係者の想いをベースに、様々な現場のニーズにその場その時の最善を考えて応え続ける中で形作られたものです。

「出来る出来ない」の議論ではなく、「どうすれば出来るかどこまで出来るか」を真剣勝負で積み重ねる大切さを共有出来たらと思います。

セッション④

「生活困窮者支援をしている僕らが 発達障がいについて学んだら」

ふわりんくる〜じよんでされた、生活困窮者支援には発達障がいに対する知識、とりわけアセスメント力が大切だよね？という問題提起を受け、各地の生活困窮者に関わる支援者が「山口久美式・7days」と呼ばれる研修を受講しました。

「目からウロコ！」「困窮者支援の視点が変わった！」「対象者理解が格段に深まった！」など、受講者は一様に驚き、知らないで支援していた今までを反省。その様子を報告！

分科会〜じっくり語ろう！3時間半〜

①子どもの環境を整えとす
ごく育つ！それがICFモデルだ
よね？～全く新しい発想から
生まれた姿勢保持技術
「CASPER・APPROACH」か
ら学ぶ～

②豊中の学校への看護師派
遣をもっと知ろう！

③セッション③「我がご
と・丸ごと・自分ごとの地
域創ってます！住民参加で
ね！」からの

④セッション④「生活困窮者
支援をしている僕らが発達障
がいについて学んだら」から
の

村上潤子(NPO法人ポップンクラブ
代表理事)
梶原厚子氏(株式会社スペースなる
代表取締役)
西村幸氏(公益財団法人 日本訪
問看護財団 松山相談支援セン
ター)

植田陽子氏(豊中市教育委員会
児童生徒課 支援教育係 看護
師)
新井在慶氏(特定非営利活動法
人ふい〜る工房法人統括・田原
市障害総合相談センター所長)
加瀬進氏(東京学芸大学 教
授)

勝部麗子氏(大阪府・豊中市社
会福祉協議会 福祉推進室長)
平井俊圭氏(三重県・伊賀上野
市社会福祉協議会)
長谷部治氏(兵庫県・神戸市社
会福祉協議会)
原田正樹氏(日本福祉大学 教
授)

佐藤寿一氏(兵庫県・宝塚市社会福
祉協議会)
森脇俊二氏
向井由美子氏
(富山県・氷見市社会福祉協議会)
徳弘博国氏(高知県・香美市社会福
祉協議会)
山口久美氏(有限会社 SNOW
DREAM 代表)
富田昌吾氏(寝屋川たすけあいの会
事務局長)

第9回 ふわりんクルージョン2018 冬

ユニバーサル？ダイバーシティ？多文化多様性と共生する僕たちになるには？

～違いを受け入れてお互いが尊敬し合い、良いところを活かしあって繋がり生きる社会～

プログラム

.....1日目 12/15(土).....

9:30 受付開始

10:00 開会のあいさつ

行政説明「医療的ケア児を含めた障がい児の未来」～よりユニバーサルデザインで様々な垣根を越えて障がい児の福祉を考える～
厚生労働省 障害保健福祉部 障害児・発達障害者支援室 地域生活支援推進室 室長 山口 正行 氏

10:50 休憩

11:00 セッション①「そもそも医療的ケア児の定義って何？判定基準作れるの？」

～医療的ケア児者・初めての報酬改定で進んだこと・積み残したこと。定義や判定基準作りのこと～

一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長 国際医療福祉大学大学院副大学院長 中村 秀一 氏

医療財団法人はるたか会 理事長 医師 前田浩利 氏

認定NPO法人フローレンス 代表理事 駒崎弘樹 氏

社会福祉法人くるみ 理事長 岡本久子

助言者 立憲民主党 衆議院議員 荒井さとし 氏

厚生労働省 障害保健福祉部 障害児・発達障害者支援室 地域生活支援推進室 室長 山口 正行 氏

コーディネーター 東京学芸大学 教授 加瀬進 氏

13:00 昼食

14:00 対談「医療的ケア児でも、学校はどこに行きたいか自分で選べるんやでえ！」

～大阪府豊中市・普通学校か特別支援学校か訪問教育かはメリデメで本人・家族が選ぶんやでえ！～

豊中市教育委員会 児童生徒課 支援教育係 看護師 植田陽子 氏

助言者 寝屋川たすけあいの会 事務局長 富田昌吾 氏

聞き手 特定非営利活動法人ふい～工房法人統括・田原市障害総合相談センター所長 新井在慶 氏

15:00 休憩

15:10 行政報告「豊かな暮らしの場をすべての人にどのように実現していくのか」

厚生労働省 障害福祉課 地域生活支援推進室 室長補佐(併) 地域移行支援係長 富原博氏

16:00 10分間休憩

16:10 セッション②「生かされるだけでなく生きる・ともに生きるには」～東京オリンピックも来るんだし・ダイバーシティの理念を今一度再確認したいね！～

毎日新聞社 論説委員 野沢和弘 氏

株式会社 スペースなる 代表取締役 梶原厚子 氏

豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長 勝部麗子 氏

積水ハウス株式会社 CRE事業部 医療介護推進室 課長 山村由美子 氏

早稲田大学 創造理工学部 建築学科1年 永尾美沙 氏

助言者 厚生労働省 障害福祉課 地域生活支援推進室 室長補佐(併) 地域移行支援係長 富原博 氏

コーディネーター NPO法人ふわり 社会福祉法人むそう 日本福祉大学客員教授 戸枝陽基氏

18:30 終了

.....2日目 12/16(日).....

09:30 セッション③「我がこと・丸ごと・自分事の地域創ってます！住民参加でね！」～全国各地から人作り・ネットワーク作りのツボがわかる達人集合～

大阪府・豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長 勝部麗子 氏

三重県・伊賀上野市社会福祉協議会 平井俊圭 氏

兵庫県・神戸市社会福祉協議会 長谷部治 氏

コーディネーター 日本福祉大学 教授 原田正樹 氏

11:00 10分間 休憩

11:10 セッション④「生活困窮者支援をしている僕らが発達障がいについて学んだら」

～発達障がいの正しい理解、アセスメントが出来る～困窮者支援の質が変わるよね？～

兵庫県・宝塚市社会福祉協議会 佐藤寿一 氏

富山県・氷見市社会福祉協議会 森脇俊二 氏

向井由美子 氏

高知県・香美市社会福祉協議会 徳弘博国 氏

助言者 有限会社 SNOW DREAM 代表 山口久美 氏

コーディネーター寝屋川たすけあいの会 事務局長 富田昌吾 氏

12:30 お弁当をもって分科会の部屋へ移動・休憩

13:00-16:00 分科会 じっくり語ろう！3時間半！

第1分科会 子どもの環境を整えるとすぐ育つ！それがICFモデルだね？

～全く新しい発想から生まれた姿勢保持技術「CASPER・APPROACH」から学ぶ～

第2分科会 豊中の学校への看護師派遣をもっと知ろう！

第3分科会 セッション③「我がこと・丸ごと・自分事の地域創ってます！住民参加でね！」からの

第4分科会 セッション④「生活困窮者支援をしている僕らが発達障がいについて学んだら」からの



16:00 分科会終了 ホールへ移動・休憩

16:20 各分科会の報告・まとめ

コーディネーターNPO法人 起業支援ネット 副代表理事 鈴木直也 氏

17:20 閉会の挨拶

NPO法人ふわり 社会福祉法人むそう 日本福祉大学客員教授 戸枝陽基

17:30 終了

Email : info@fuwari.tv